

# 岩屋中だより

令和6年12月23日 NO26

発行 長崎市立岩屋中学校

文責：校長 川口 猛

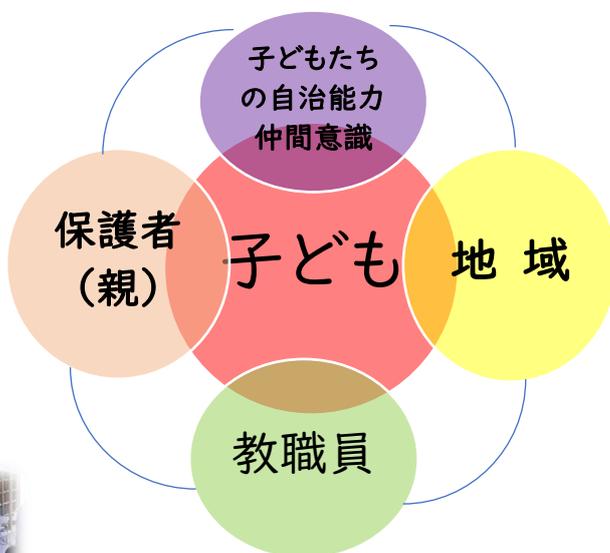
行く年、来る年 ～ 3 ～

Merry Christmas and A Happy New Year!

一度にこんなに多くのものを発行するのだったら、もっとこまめに発行すりゃいいのに……私が保護者だったらそのように思うでしょう。これでもか……というほど年末に向けて発行していますが、今年のうち発行も残りわずかです。学期末にかけて多くの講演会や体験学習、フィールドワーク、発表会などが集中し、写真は撮影しても載せる間もなく次の活動が始まり……その連続でこのような事態になりました。生徒会役員改選も写真にて紹介したいなどは思ったのですが、せっかくの立候補者が解像度を落とされて掲載されるのもなあ……と思って、今回は断念しました。今回は、地域での生徒の力の発揮とつながる年末の光景です。本当に『ありがたい』ですね。新旧生徒会役員の皆さん、育成協の方、先生方ありがとうございました。

## 地域の人とともに。手作りの温もり、温かさ。ありがとう。

12月15日(日)、本校にて、岩屋中学校区青少年育成協議会の方4名と現生徒会役員、そして1月から就任する新生徒会役員が協力し合って、門松、そして鏡もちを作りました。手作り感満載で、人の温かい心が込められたものは、人の心を動かすものだと感じました。人間、根底にあるのは『心』。育成協議会の方々は、『岩屋の子供たちのため』という心で、そして、生徒会役員の皆さんは、『岩屋中学校のために』という思いで、そして、それを支えバックアップした一瀬先生、藤田雄大先生、引地先生は、『岩屋中学校の子供たちのために』という思いで作ったと思います。共通するのは、中心に『岩屋中学校の子どもたちの幸せ』という点です。この温かいお話の中に、保護者の方々の温かい言葉が加わることによって、ますます、『岩屋中の子どもたち』は幸せになっていくのだと考えます。ふるさと学習も始まりました。地域・保護者・学校の中で子どもを中心に据えた『子育て』が実現していければ、それは『予測不可能な社会を生き抜く力』になりうるものと考えます。





街は、イルミネーションでクリスマス一色。スーパーに行っても、長靴がたくさん販売されています。25日すぎると、今度は、お正月モード一色に。店内の音楽も正月の音楽。しめ縄や鏡餅、かまぼこや数の子、昆布などお正月商品が多く並びます。この物価高の中、蒲鉾はいったいいくらになるのだろうか……などと考えてしまいます。能登半島の地震からもうすぐで一年。時が過ぎるのは早いものですが、復興はまだだと聞きますし、被災地は、豪雨災害もあって、大変な1年間だったと思います。一刻も早い復興を願うばかりです。